

## 第143回医療ビジネス研究会のご案内

今年上半期(1~6月)の老人福祉・介護事業者の倒産件数は55件と、介護保険法が施行された2000年以降、年上半期ベースで最多を記録しています。中でも、ヘルパー不足が深刻な訪問介護事業者の倒産が急増しており、年間ベースでも最多になる可能性があります。直近(2018)の「質が高く、効率的な介護の提供体制の整備推進」を意図する介護報酬改定の影響で、資金力、人材確保力、経営ノウハウなどの優劣で、事業者が淘汰される状況が鮮明になりつつあります。(東京商工リサーチ)

介護保険法施行初年度の「介護総費用」は約3.6兆円でしたが、2015年度予算では10.1兆円に増え、2025年度には21兆円に増えると見積もられています。(厚生労働省)急拡大が見込まれる高齢者福祉・介護分野は成熟化した日本市場においては魅力的な市場であることは否定できず、さまざまな事業者が新規参入してきた市場です。需要が充足されてきた現在におきましては競争が激化し、事業者には「質が高く、効率的な介護サービスの提供」と「安定的経営」が求められてきました。

今回は後発ながら介護事業に参入し、陣頭指揮をされてきた SOMPO ホールディングス株式会社の奥村氏よりお話をうかがいます。同社は金融自由化の流れの中で、他の大手保険会社と同様に損害保険事業に加え、生命保険事業、海外での保険事業にも進出するグローバルな総合保険会社ですが、2015年の秋には業界6位のワタミの介護部門を買収し、矢継ぎ早に業界3位のメッセージも買収し、現在では介護業界で居室数では第1位、売上高では第2位を誇る事業者でもあります。

他の大手保険会社と戦略的に大きく違うところは、保険事業を中心としたコンピタンスである金融事業とは、関連性が希薄な介護分野を第4のコア事業として位置付けたところ。組織風土の違い、金融事業とのシナジー効果が期待できるのかといった点など、大きな挑戦であることは否定できませんが、投資規模やそのスピード感からは、市場の将来性、競争の優位性を認識する本気度も感じ取れます。

介護事業参入から約3年の総括と、引続き高齢者が増え続ける状況と、その先に高齢者が減少に転じる状況を踏まえ、事業者の視点で高齢社会の課題と展望を解説戴きます。「失われた20年」に象徴されるように日本経済は閉塞感が蔓延し、日本企業のグローバル市場での地盤沈下が著しい中、挑戦(戦略的組織行動)が新たな成長を可能とする話をお聞きいたします。福祉事業に関わる方はもとより、経営者及び経営に関わる仕事をされている方にも是非ともお聞き頂きたくご案内申し上げます。

2019年7月

特定非営利活動法人 医療事業再生機構

### 記

- テーマ:「介護事業参入3年目の総括」=高齢化時代の課題と展望=
- 講師:奥村幹夫氏 SOMPO ホールディングス株式会社 執行役常務 CSO(最高戦略責任者)、元 SOMPO ケア株式会社 代表取締役社長
- 開催日時:2019年8月7日(水曜日)18:30~20:30

以上

※ 医療ビジネス研究会の参加には受講票が必要です。参加を希望される方は HP よりお申込ください。